

クラウドサービスの安全性評価に関する検討会について

平成 30 年 8 月
総 務 省
経 済 産 業 省

開催趣旨

データは「21 世紀の石油」とも言われるように、その利活用と適切な管理の両立が国のあり方とその発展に大きな影響を与えることとなる。クラウドサービスはデータの利活用・管理における中核のサービスとなっており、クラウドサービスの多様化・高度化に伴い、効率性の向上、セキュリティ水準の向上などの目的から、官民ともに、クラウドサービスの導入が進み、情報・情報システムの舞台がクラウド上に移りつつある。政府においては、「政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に係る基本方針」(2018 年 6 月 7 日 CIO 連絡会議決定)を定め、情報システム調達に際しては、クラウドサービスの利用を第一候補として検討を行うこととしており、今後、そのさらなる利用拡大が見込まれている。他方で、適切なセキュリティ管理への懸念等から、クラウドサービスの導入が円滑に進んでいない現状も散見される。

未来投資戦略 2018(2018 年 6 月 15 日閣議決定)にも記載のとおり、今後、官民双方が一層安全・安心にクラウドサービスを採用し、継続的に利用していくためには、情報資産の重要性に応じ、信頼性の確保の観点から、クラウドサービスの安全性評価について、諸外国の例も参考にしつつ、実効性のある評価方法の確立が必要である。

本検討会は、クラウドサービスに係る既存の各種ガイドライン、国内外の認証制度、監査制度等を整理するとともに、適切なセキュリティを満たすクラウドサービスを導入するために必要な評価方法等を検討し、年内の中間とりまとめを目指す。政府は、検討会での議論を踏まえ、具体的な内容を「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」や「政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に係る基本方針」に反映するなど、必要な措置を講ずる。